

「対等な協働」を引き出すための 共同学習への転換

～「生徒の協働的な姿」を目指した学習内容の設定～

岡山県健康の森学園支援学校
渡邊 早紀

I 実践にあたって：交流及び共同学習の現状

県北部3高校との交流・共同学習

地域社会との繋がりを深め、生徒の実践的な学びを広げるため、県北部にある3つの高等学校と交流及び共同学習を積極的に推進している。

I 実践にあたって：交流校について

商業高校(交流校)について

○接客や販売学習を専門的に学んでいる。

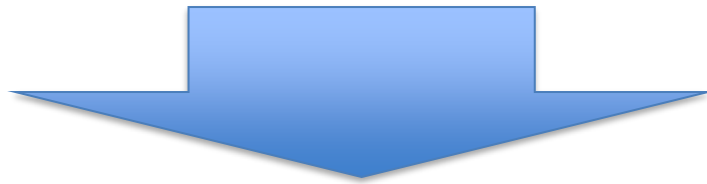
○生徒が主体となり、年に一度、モール(販売)を開催している。

I 実践にあたって：本校の現状と課題

卒後の社会生活を見据えた学習

企業や事業所での現場実習(企業・事業所)の実施

学園のアンテナショップでの販売や接客活動

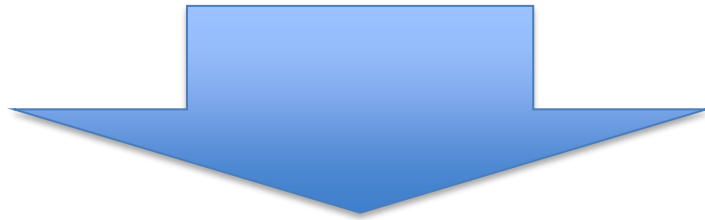


課題：必要な接客スキルやビジネスマナーの学習が不十分。

I 実践にあたって：本校の現状と課題

商業高校との連携のはじまり

ビジネスマナー講座の開催：商業高校の専門教員を講師として招き、指導を受ける取組をはじめめる。



☆講座修了後(本校生徒の学習の様子を見られて。。。)

商業高校の先生から、

「生徒(交流校)も一緒にビジネスマナーの学習ができるかもしれない。」

I 実践にあたって：交流及び共同学習の目的の整理

本校の生徒

商業高校の生徒

ニーズ

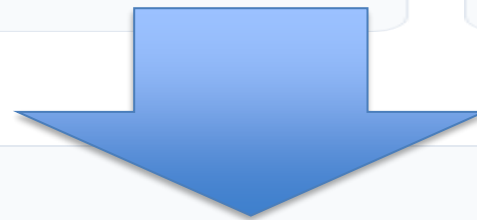
より良い販売方法を学んだり練習したりすることで、日頃の作業学習や販売活動などをさらに深めたい。

就職を目指している生徒の中で、福祉関係を希望していたり、興味関心のある生徒がいたりする。

強み・特徴

体験・目的・具体物・身近なテーマを重視した学習は、イメージをもちやすく、定着しやすい。

接客・販売・デザイン・マーケティングに関する専門的知識や技術を学び、実践している。



共同学習の目的

双方のニーズや強み・特徴を整理することで、共同学習の目的が明確になる。

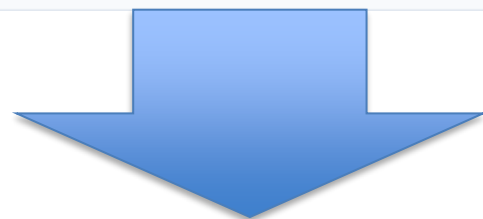
互いに尊重し合い、対等に学び合う場を構築できる。

Ⅱ 実践内容：教員間で学習の目的を一致させる

単なる「交流」で終わらせない意識

本校と商業高校の教員間で事前打ち合わせを綿密に実施

「楽しかった」という感想だけで終わることがないように、双方にとって教育的効果を生み出せることを目的に学習を行うことを再確認する。



明確な学びのゴール設定

この活動を通して、双方の生徒に何を学ばせたいか。

どのような対話と協働の姿を引き出したいか。

Ⅱ 実践内容：題材「収穫祭に向けたポップ制作」

活動設定の工夫 「対等な協働を引き出す題材」

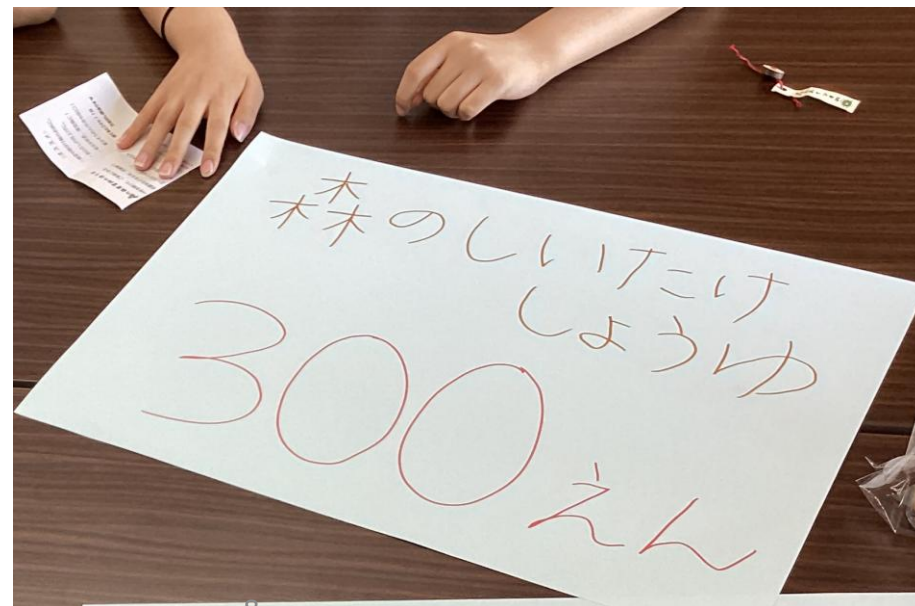
双方の専門性や背景から学びやすく、成果が分かりやすい題材

「収穫祭に向けたポップ制作」を設定。

○一方的な「教える・教えられる」関係を回避

○対話を通じて、お互いのアイデアを得る構成

商業高校生徒が本校生徒に提案したポップ→



Ⅱ 実践内容：生徒の状況分析（本校生徒）

製品に対する強い「思い」

自分たちの製品に対する愛情と、「魅力を伝えたい」という明確な思いを持っている。

販売に対する意識と気づき

「製品の良さをしっかりと伝えることが大切ではないか」という課題意識が芽生え始めている。

高い関心と学習意欲

お客様の購買意欲を高めるための具体的な工夫や表現方法に対し、関心をもちつつある。

Ⅱ 実践内容：生徒の状況分析（商業高校生徒）

デザイン・構成の修得

単に文字を書くだけでなく、配色、レイアウト、視覚効果など購買意欲を高めるポイントを押さえたポップ制作を専門的に学習している。

「見せ方の技術」の提示

学習で培った「宣伝」に関する具体的なアイデアやデザインの手法などを提案する力をもっている。

Ⅱ 実践内容：相補的な役割分担（最重要）

本校生徒の強み

製品への思い

ポップに「製品の良
さや作り手の思い」
を盛り込む



商業高校生の強み

デザイン・構成力

専門的な視点で
「伝わる見せ方の技
術」を提案する



生み出された価値
相補的な対等な協働

対等な話し合い
による
質の高い成果物
の完成

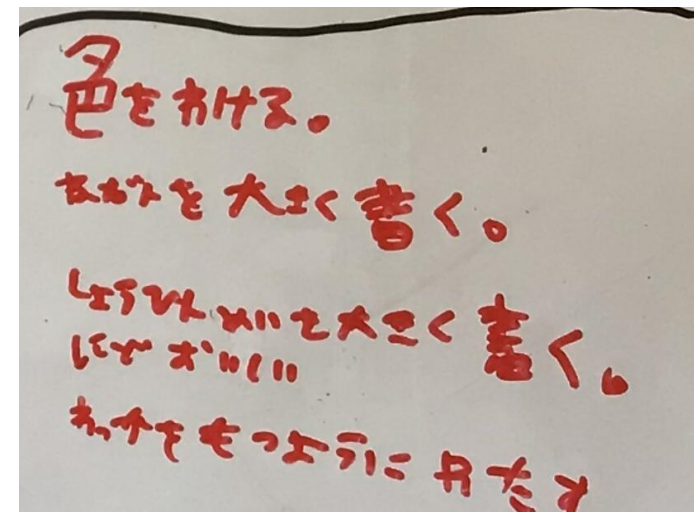
Ⅲ 成果：主体的・対話的な学びの実践

生徒の変容と活動の成果

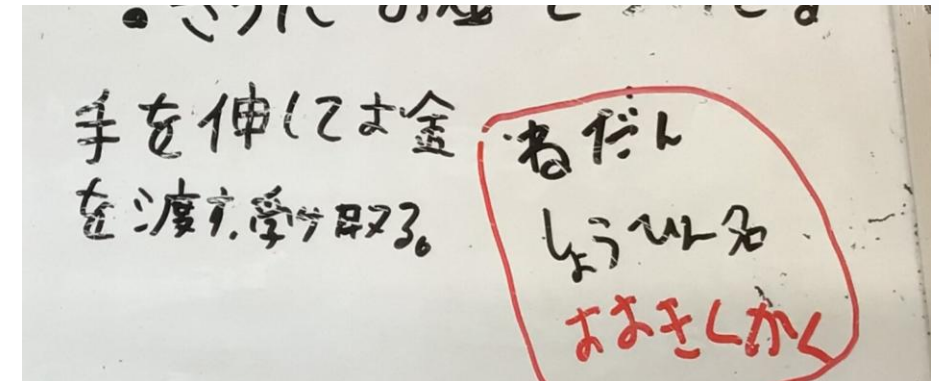
積極的に学ぶ姿勢

アドバイスされたポイントを熱心にメモし、実際のポップ制作にすぐ反映していた。

作成したポップを使って、販売練習に取り組んだ。



←教えてもらった
内容のメモ
↓



←制作したポップを
使って販売練習

Ⅲ 成果：主体的・対話的な学びの実践

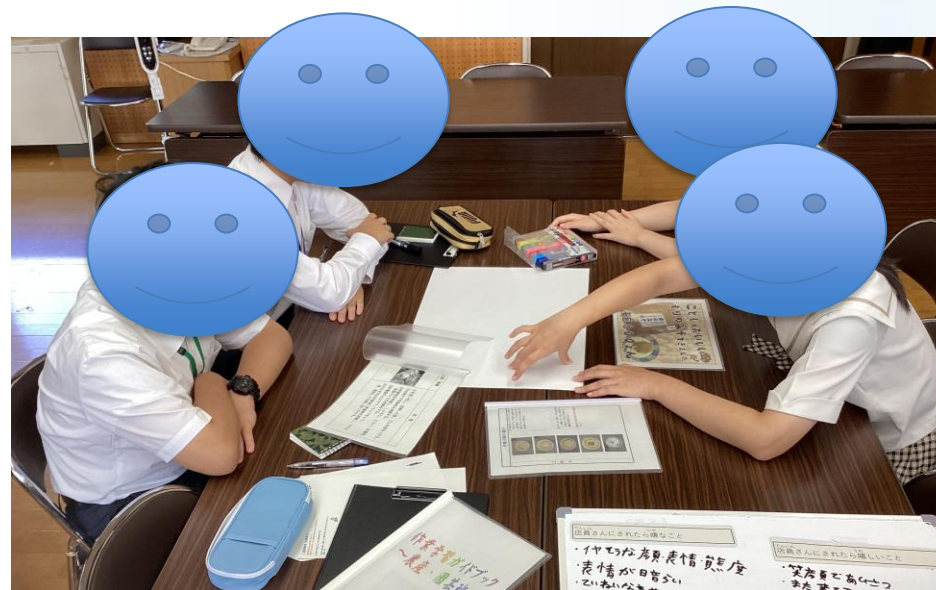
生徒の変容と活動の成果

双方向の提案

両校の生徒が互いに意見やアイデアを積極的に出し合う姿が見られた。

教えてもらったポイントを押さえて、ポップを制作→

伝えたい内容を商業生と相談↓



Ⅲ 成果：主体的・対話的な学びの実践

生徒の変容と活動の成果

積極的に学ぶ姿勢

アドバイスされたポイントを熱心にメモし、実際のポップ制作にすぐ反映していた。

双方向の提案

両校の生徒が互いに意見やアイデアを積極的に出し合う姿が見られた。



主体的・対話的な学び

ポップアップ制作を通して、「より効果的な製品名の見せ方やデザイン」などの知識を学び、「お客様に伝わる表現方法を一緒に考える」などの思考し対話する「質の高い学び」を、両校で共有できた。

Ⅲ 成果：同世代からの学びとモチベーション

同世代との交流

接遇や販売を専門的に学ぶ同世代の生徒と直接関わることで、良い刺激を受けた。

学習意欲の向上

同じような学習をしている同世代の存在を知ること、作業学習や接遇に対するモチベーションの向上に繋がった。



↑顧客満足度について話し合う



商業モールへ¹⁵出店し、両校生徒で販売活動↑

Ⅲ 今後の課題：「教える・教えられる」からの脱却

関係性のタイプ	商業高校生徒の姿	本校生徒の姿
従来の支援型 (回避したい関係)	一方的に 「教える・主導する」	「教えてもらう・引っ張られる」 受動的な立場
目指す協働型 (求める関係)	生徒同士が対等な立場で課題を共有し、 共に学びを深め合うパートナーシップ	

Ⅲ 今後の課題：教員間の共通理解

「目指す生徒像」の徹底共有

共同学習で目指す「生徒の協働的な姿」について、両校の教員間で協議し共通理解を図る。

評価・指導における方針の決定

評価の観点や具体的な指導方針を一致させ、教育効果を最大限に高める。

持続可能な基盤の構築

充実した質の高い学びを継続的に生み出すために教育課程上の位置付けとしての連携基盤を強固にする。